

全国直売所研究会リモートセミナー

第5回「危機に備える。わが社の情報発信・交流企画」

11月18日（木）15:00～16:30

コロナ禍のみならず、突然の天候異変や地震、また内部にあっては高齢化と後継者不足、施設の老朽化など、私たちは、さまざまな「危機」を切り抜けながら直売所の販売を伸ばし利益を上げ運営しなくてはなりません。

全国直売所研究会では10～12月の3回にわたり、「危機に備える」を念頭に、販売戦略、情報戦略、経営戦略に関する話題を会員講師の皆様から話題提供いただきます。今回は「情報発信・交流企画」がテーマです。



司会 山口成美会長

講師 瀬上 恭寛先生 静岡県三島市 榑村の駅 代表取締役

榑TTCは、伊豆半島を中心に、静岡県全体、関東甲信越、北海道に至るまで、分社化した企業を含むグループ全体で、「地域ブランド創出」「食のテーマパーク事業（道の駅運営も含む）」「地域創生コンサル」「再生事業」等を幅広く手がけている。

榑村の駅が運営する「伊豆・村の駅」は、食のテーマパーク事業の基幹店舗である。農産物直売所を中心に、鮮魚（まぐろ道場）、卵関連のスイーツ（TAMAGOYA）、餃子（餃一郎）、軽食（バーガーキッチン）、花卉（花子の生活）、体験農園のほかに塩、豆腐、パンなどの製造販売施設、そして三か所の飲食コーナーを備える。

ここで販売される食品や調味料は、すべてが榑TTCが展開する地域の産物を素材とした、自社製造もしくはOEM商品である。調味料選手権2019のグランプリである「雲丹醤油」をはじめとしたオリジナル商品、そして飲食施設におけるメニュー開発など時代を先取りする商品企画、そして企業としての情報発信力は、すべての直売所や道の駅の参考になる。



講師 鐘突 久伸先生 山口県田布施町 田布施地域交流館店長

田布施町は、山口県南東部に位置し、人口約1万5千人。雨が少なく日照時間の多い温暖な気候である。交流館のすべて主要販売品は、田布施産野菜・果物・米、瀬戸内海の鮮魚、手作り弁当・惣菜・パン・菓子・酒・花卉などである。特産品のいちじくの出荷量は山口県1位を誇る。ここでは、田布施産の商品にこだわり、農産品の仕入れは行わず、地元根づいた営業を心がけ、親切丁寧なサービスを徹底している。

直売所甲子園部門別大賞2019では、主力商品である「米」に注力した商品づくり、①有機JAS認定肥料のみで栽培し、第三者機関による食味検査で82点以上の米を、オリジナルブランド「たぶせ健康厳選米」として認定し販売開始、②「たぶせ古代源米」シリーズの商品化、「古代米田んぼアート」による交流、③無農薬・有機栽培米を使った純米大吟醸「環起（かんき）」の販売、などが高く評価された。

特産品のイチジクは、いろいろ、甘酒、大福、パフェなど、数多くのオリジナル商品が開発されている。また、昨年6月には、厨房棟（144㎡）、多目的棟（イートインスペース68.5㎡）などが整備され、交流拠点としての機能がより一層充実した（写真はカフェスペース「さくらみち」で販売されているイチジク4個使ったパフェ「いちじくdarake」）。

